

# 児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくりの検討

—個に応じた適切な目標と支援を目指して—

○田村 典子

名古屋 恒彦

(岩手大学教育学部附属特別支援学校)

(岩手大学教育学部)

KEY WORDS : 授業づくり 主体性 学習評価

## I 目的

本校は学校教育目標に「現在及び将来の社会生活において、主体的にそして豊かに生きる人を育成する」を掲げ、授業づくりによりその達成を目指している。

本校の授業づくりでは、日々の主体的な生活を積み重ねることで、将来の主体的な生活につながるという考えの下、日々の授業で児童生徒が「主体的に活動する姿」を目指す授業を追究してきた。そのためには、全校で方向性を一にした授業づくりをすることが大前提である。

平成26～27年度の研究では、児童生徒の「主体的に活動する姿」を目指す授業づくりのための5つの視点と工夫する内容を「授業づくりの視点」として示し、これに基づき授業づくりを行うようにした。また、日々の授業における「主体的に活動する姿」が積み重ねられるように日々の授業改善を繰り返し、学校教育目標の達成を目指す「授業づくりの構想」を示した。これにより、全校が同じ方向で授業づくりをするための基盤を整えた。

この基盤に基づいて授業づくりを深化させるためには、児童生徒一人一人に焦点を当て、実際に活動する様子における「主体的に活動する姿」を明らかにする必要がある。

そこで本研究では、個に応じた適切な目標設定をすることで「主体的に活動する姿」を具体的にし、それに基づく適切な支援を明らかにすることを目的とする。

## II 方法

1 授業の中での児童生徒の「主体的に活動する姿」とそのための適切な支援を明らかにするため、研究授業（年間全校で9授業）、授業研究会を実施する。研究授業では指導案を作成する。また、授業研究会では実際の授業における児童生徒の活動の様子と適切な支援について検討する。

2 「主体的に活動する姿」を積み重ねられる適切な目標と支援に迫るために、児童生徒一人一人の単元における「評価シート」を作成する。「評価シート」は「単元目標の設定にあたって」、「単元目標」、「活動の様子」について記入し、日々その内容を検討することで授業改善を図る。

## III 結果

### 1 実際の授業における児童生徒の活動の様子

研究授業では、「授業づくりの視点」に基づき単元を計画した。指導案には、「授業づくりの視点」に基づき単元の計画において工夫した内容を示した。提案された授業は、遊びの指導、生活単元学習、作業学習であったが、これらの授業の指導案に示された「授業づくりの視点」に関する内容で共通していた内容は、表1に示した通りであった。これらの内容の共通性が、以下の授業研究会における目標設定や支援に関わる議論を方向付けることにつながったと考える。

授業研究会では、授業中の児童生徒の活動の様子について、

「自分で考え活動する様子」、「存分に活動する様子」、「自分で判断して活動する様子」、「単元の目標や自分の活動を理解して取り組む様子」、「自分の活動に首尾よく取り組む様子」が見られ、これが主体的に活動する様子であると全校で共通理解が図られた。また、このような児童生徒の様子を基に支援についての改善案などが多く話し合われた。

しかし、指導案に目標を示す場合、実際の学習活動を基に具体的に示すため、内容が「知識・技能」の習得のみの目標であるように受け取られたり、単元の目標が児童生徒の目標と同じ内容になったり、表現が難しいという課題が挙げられた。

表1 指導案に示された「授業づくりの視点」で共通していた内容

- ・児童生徒が目的をもち取り組める単元になるような題材を選定していること
- ・中心になる活動を繰り返す計画になっていること
- ・児童生徒が存分に活動できるような活動内容になるように工夫をしていること
- ・分かって動き、十分に活動できるように支援が工夫されていること
- ・児童生徒、教師が共に活動し、目的を共有し、全員が共感できること

2 児童生徒の「主体的に活動する姿」を積み重ねるために研究授業の単元において、児童生徒一人一人の評価を「評価シート」に記入した。「評価シート」の「単元目標の設定にあたって」には、これまでの学習評価を基に単元にかかわる内容が記入された。これを基に「単元目標」である「主体的に活動する姿」を設定した。このように、「評価シート」の児童生徒一人一人の「単元目標の設定にあたって」に示した内容が「単元目標」の根拠となったことで、「単元目標」が児童生徒一人一人に応じたものになった。また、「活動の様子」は児童生徒の学習評価であるが、実際の活動の様子を基に具体的に記入した。この中には「主体的に学習に取り組む態度」、「思考力・判断力・表現力」、「基礎的・基本的な知識・技能」の観点を含み、児童生徒がその単元で何を身に付けたかが分かるように記入した。この「活動の様子」を基にして次の「単元目標」の設定を行うことで、児童生徒が身に付けた力が積み重なっていくことが明らかになった。

## IV 考察

本研究では「主体的に活動する姿」を明らかにするため、授業実践での児童生徒の目標と支援について、全校で共通理解しようとした。児童生徒一人一人の様子を授業の目標、授業中の活動の様子と支援、学習評価について検討することは地道な作業であったが、本校の授業づくりで目指す児童生徒の具体的な姿を全校で共有することができた。また、目標設定と支援については、学習評価が大きな手掛かりとなっていた。これをさらに追究し、授業改善を繰り返し、今、そして将来につながる適切な目標や支援に迫りたい。

(TAMURA Noriko, NAGOYA Tsunehiko)